

2017年度点検・評価シート

※下記の指摘事項、課題を踏まえて、Ⅱ点検・評価 Ⅲ【達成目標】欄を記述してください。

(進捗状況を【現状説明】に記述し、必要に応じて新たに【目標】を設定する。)

<p>2016年度大学評価（認証評価）結果指摘事項</p> <p>Ⅱ 総評</p> <p>課題としては、前回の大学評価で助言が付された教員の年齢構成等については改善がみられるものの、一層の改善を期待したい。</p> <p><概評></p> <p>学部における教育活動の評価については、学生による授業評価を活用しているが、学部としての評価やピアレビューは各学部とも行っていない。教員の資質向上を図る取組みについてはコンプライアンス研修等を行っているものの、より積極的に取り組んでいくことが期待される。教員組織の適切性の検証については、各学部の教授会を中心に行っているが、全学的な検証体制を構築することが期待される。</p>
<p>2016年度外部評価委員会指摘事項</p> <p>【特筆すべき事項】</p> <p>全学人事委員会が設置された事は、評価できる。ほとんどの学部・研究科において、教員像や教員組織の編制方針が定められている。ただし、教員構成については、各学部で明確化するだけでなく、社会の要請、専門性、年齢構成や女性・外国人の比率などに配慮しつつ、大学全体として適切な教員構成を示す必要がある。その点においては、今後は、全学人事委員会の権限を高めることも必要と思われる。</p> <p>【改善提言】</p> <p>女性教員・外国人教員の少ない学科、教授職の高齢化が進んでいる学科は、適切な構成員比率をめざしてほしい。</p>
<p>前年度からの課題（2016年度点検・評価シート IV次年度への課題 より転記）</p> <p>2017年度点検・評価シートで、上記の通り所見内容を踏まえた記述にする。</p>

I 評価項目・担当部局

対象部局	文学部
評価基準3	教員・教員組織【自己評定 A】
点検・評価項目(1)	3-1 大学として求める教員像および教員組織の編制方針を明確に定めているか。
評価の視点	教員に求める能力・資質等の明確化
	教員構成の明確化
	教員の組織的な連携体制と教育研究に係る責任の所在の明確化
点検・評価項目(2)	3-2 学部・研究科等の教育課程に相応しい教員組織を整備しているか。
評価の視点	編制方針に沿った教員組織の整備
	授業科目と担当教員の適合性を判断する仕組みの整備
点検・評価項目(3)	3-3 教員の募集・採用・昇格は適切に行われているか。
評価の視点	教員の募集・採用・昇格等に関する規程および手続きの明確化
	規程等に従った適切な教員人事
点検・評価項目(4)	3-4 教員の資質の向上を図るための方策を講じているか。
評価の視点	教員の教育研究活動等の評価の実施
	教育活動・研究活動等の業績の公表状況
	ファカルティ・ディベロップメント（FD）の実施状況と有効性
点検・評価項目(5)	3-5 教員組織の適切性について定期的に検証を行っているか。
評価の視点	責任主体・組織、権限、手続きを明確にしているか。また、その検証プロセスを適切に機能させているか。

Ⅱ 点検・評価 対象期間は2016年4月～2017年5月までとする。(教員数、学生数などのデータの基準日は2017年5月1日)

【点検・評価項目ごとの現状説明】

3-1	<p>文学部は、日本文学科・中国文学科・英米文学科・教育学科・書道学科の五学科から成る学部である。文学部の教育研究上の目的は、人文諸科学に関する学識を修めるを通し、広い識見と深い洞察力をもち、人間の生き方やありかたを考究し、多様な現代社会ならびに国際社会の諸問題に対応できる人材を養成することである。この目的を達成するための教員組織の編制方針は、以下のとおりである。</p> <p>変化流動する今日の世界と日本にあって、現代的課題に配慮しつつ、文学部の教育研究上の目的実現のため、文学部五学科（日本文学科・中国文学科・英米文学科・教育学科・書道学科）各々の専門分野に照らし、教員の専門性・年齢構成・性別・国籍等を勘案しつつ、編制する。</p> <p>組織的な教育の推進体制については、まず各学科において学科主任とカリキュラム委員が連携し、ついで主任会議、教務委</p>
-----	--

	員会、FD 委員会を中心に 5 学科間の調整を図り、それぞれが役割分担して責任の所在を明確にするとともに、すべて学部教授会に報告し承認を得ている。
3-1	<p>以下の評価の視点について、新たな取組の有無、または、継続している取組の成果の有無を【 】内に○・×で記入し、○の場合はその内容と結果を記述してください。</p> <p>求める教員像・教員組織の編制方針の策定について【×】</p> <p>具体的事例：</p>
3-2	<p>文学部は 5 学科から構成される。教員組織は学部・学科の教育研究上の目的を達成するために編制され、専門教育・基礎教育・教養教育（全学共通科目）・外国語教育等を担当する専任教員、兼任教員を置いている。文学部の教員構成は以下のとおりである。</p> <p>専任教員（特任教員を含む）は 81 人（教授 43 人、准教授 22 人、講師 14 人、助教 2 人）で、大学設置基準によって定められた教員数を満たし、教員組織の編制方針に整合した編制が行われている。兼任教員は 191 人、専兼比率（専門教育科目）90.6%、専任教員 1 人当たりの学生数 29.6 人、年齢構成比率は 61 歳以上 37.0%、60～51 歳 30.9%、50～41 歳 21.0%、40～31 歳 11.1%、30 歳以下 0%、女性教員比率 19.8%、外国人教員比率 2.5%である(d1-表 2、B3-26 d2-表 10、表 5、表 4)。</p> <p>授業科目と担当教員の適合性については、各学科の学科協議会で点検が行われ、学部教授会に報告される（B3-22）。毎年度の自己点検・評価活動においても検証が行われる（B3-21）。</p>
3-2	<p>以下の評価の視点について、新たな取組の有無、または、継続している取組の成果の有無を【 】内に○・×で記入し、○の場合はその内容と結果を記述してください。</p> <p>(1) 編制方針に沿った教員組織の整備について【○】</p> <p>具体的事例：全学人事委員会策定の「教員定数の見直し」により、現有専任教員数が設置基準定数に合致するよう、5 学科ともに、向こう 10 年間のシミュレーションを行ない、それを実施すべく後任人事を開始した。</p> <p>(2) 授業科目と担当教員の適合性を判断する仕組みの整備について【○】</p> <p>具体的事例：5 学科ともに、向こう 10 年間のシミュレーションに従い、学科協議会で判断し、学部教授会で承認している。</p>
3-3	<p>教員の募集・採用・昇格については、全学の基準である大東文化大学規程の教員選考基準に準拠して、文学部および各学科が定める内規に則って適切に行われている（A3-4-1）。</p> <p>採用と昇格の手続きについては、当該教員の所属学科での協議に基づき、学科主任が教授会に選考委員会の設置を報告し承認を得る。選考委員会は、専任教員の採用・昇格または兼任教員の採用の人事別に委員の構成が定められている。委員会は履歴書・業績等に基づいて審査を行い、その結果は教授会に報告され、教授会出席者の 3 分の 2 以上の同意を得て採用と昇格人事は承認される。募集は全学の方針に従って公募制をとっている。</p> <p>選考にあたっては、科目編成および年齢構成において適正であること、当該学科専任教員の出身校比において偏りがないこと、を考慮する。</p> <p>以上、教員の募集・採用・昇格は定められた規程と手続きに則って、適切に行われている。</p>
3-3	<p>以下の評価の視点について、新たな取組の有無、または、継続している取組の成果の有無を【 】内に○・×で記入し、○の場合はその内容と結果を記述してください。</p> <p>(1) 教員の募集・採用・昇格等に関する規程および手続きの明確化について【×】</p> <p>具体的事例：</p> <p>(2) 規程等に従った適切な教員人事計画について【×】</p> <p>具体的事例：</p>
3-4	<p>教育活動については、毎年度、全学で実施されている「学生による授業評価アンケート」を参考に、評価を行っている（B3-12）。また、文学部 FD 委員会が組織され、毎年、数回の研究会・報告会を開催しているが、これは授業改善・教育力向上をめざしたものであり、社会貢献や管理業務等に関する研修会は実施していない。研究活動については、昇格審査の際の重要資料としている。</p>
3-4	<p>以下の評価の視点について、新たな取組の有無、または、継続している取組の成果の有無を【 】内に○・×で記入し、○の場合はその内容と結果を記述してください。</p> <p>(1) 教員の教育研究活動等の評価の実施について【×】</p> <p>具体的事例：</p> <p>(2) 教育活動・研究活動等の業績の公表状況について【×】</p> <p>具体的事例：-</p> <p>(3) ファカルティ・ディベロップメント（FD）の実施状況と、その有効性について【×】</p> <p>具体的事例：</p>
3-5	<p>認証評価における基準、学部・学科の「理念・目的」に基づくカリキュラムとの対応、「教職実践演習」等の文科省の方針、時代の要請に見合うグローバルな人材の育成、等、多角的な方面から検証し、学部教授会、学科協議会の公正な手続きによって</p>

	実施されている。
3-5	<p>以下の評価の視点について、新たな取組の有無、または、継続している取組の成果の有無を【 】内に○・×で記入し、○の場合はその内容と結果を記述してください。</p> <p>教員・教員組織の検証に関する責任主体・組織、権限、手続きについて【○】</p> <p>具体的事例：学園懲戒審査規程に基づく調査委員会を学部を設置し、教員の懲戒に係る責任主体・組織、権限、手続きを明確化した。評価に関する責任主体・組織、権限、手続きについては、認証評価<概評>にある通り、「全学的な検証体制を構築することが期待される」。</p>

【効果が上がっている事項】

3-1	
3-2	
3-3	
3-4	
3-5	

【改善すべき事項】

3-1	
3-2	
3-3	
3-4	
3-5	

Ⅲ 【達成目標】 目標の進捗状況は、「S：完全に達成」「A：概ね達成」「B：やや不十分」「C：不十分」で、評価する。

達成目標		目標達成の指標となるもの	評価				
			2014	2015	2016	2017	2018
中期目標 (2014～2018)	3-4FD活動を活発化させる。	FD活動の分析と対策について、教授会において報告され、FD活動報告書が作成される。			A	A	
16年度目標	3-4FD活動を活発化させる。	FD活動の分析と対策について、教授会において報告され、FD活動報告書が作成される。			A		
17年度目標	(対象期間は2017年4月～2018年3月)3-5教員組織の適切性の検証について、全学的な検証体制を構築することが期待される。	文学部一学部だけでは検証体制を構築できないので、全学的な検証体制の構築を期待する。				A	

Ⅳ 評価専門委員会所見

特記事項なし。

Ⅴ 所見への対応

Ⅵ 次年度への課題

特になし

本項目の根拠資料（データ類、裏付けとなる資料）

A3-2	教員選考基準
A3-3	大東文化大学学則 <<既出>>A1-1
A3-4-1	大東文化大学文学部教員選考規程
	日本文学科教員選考基準に関する内規
	日本文学科（東松山英語部会・外国語部会）教員選考基準に関する内規
	中国文学科教員選考内規
	英米文学科教員選考基準（内規）

英米文学科内規の適用範囲と業績の内容に関する細則

教育学科教員の採用、昇任に関する内規

書道学科教員選考内規

A3-6 大東文化大学客員教員任用基準

A3-7 大東文化大学助教規程

A3-12 専任教員の教育・研究業績 (CD-R)

B3-1 大東文化大学専任教員就業規則

B3-2 大東文化大学特任教員就業規則

B3-12 学生による授業評価アンケートと大学教育 2015 年度

B3-21 大東文化大学ホームページ (自己点検・評価活動)

<http://www.daito.ac.jp/information/examine/inspection/index.html> 《既出》B1-16

B3-22 2015 年度第 4 回文学部教授会議事録

B3-26 大学データ集 《既出》B1-22

<大学基礎データ>

d1-表 2 全学の教員組織

[追加資料]